



内定者の声

令和3年度入省予定 一般職自然系



| はじめに

この度は「内定者の声」をご覧ください、ありがとうございます。

この冊子は、令和3年度入省予定の一般職自然系（いわゆるレンジャー）の内定者が内定までの過程や勉強方法についてまとめたものです。お読みいただいている方の中には、レンジャーに少し興味がある方、既にレンジャーに志望を決めている方など、様々な方がいらっしゃると思います。皆様に有益な情報をお届けしたく、記憶が鮮明なうちの内定者の体験談を掲載しておりますので、ぜひご活用ください。

さて、私たちが試験を経験した令和2年は、試験日の延期やオンライン面接等で異例尽くしの選考となりました。皆様におかれましても、最新の情報を確認しながら受験の準備を進めていただければと思います。

この冊子が、皆様の不安の軽減やモチベーションアップに繋がれば幸いです。

令和3年度環境省入省予定
一般職自然系内定者一同

| 目次

はじめに・目次	p.2
基礎情報	p.3-5
内定者概要・（内定者ボイス・アドバイス 編	p.6-31
巻末資料	p.32
おわりに	p.33

| 基礎情報

| 国家公務員一般職試験および内定までの流れ

注 下記の日程は令和2年度のものです。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、スケジュールが大幅に変更になりました。最新の情報は人事院（国家公務員試験採用情報 NAVI）および環境省のHPを参照してください。

日時	人事院	環境省	ひとことメッセージ
令和2年 2月3日～	受験案内がHPに掲載		試験日程など内容をよく確認してください。
4月3日～ 4月15日	インターネットによる 受験申込受付期間		事前登録が必要。期日までに余裕を持って出願しよう。
8月9日	第1次試験(筆記)		服装は私服でOK。
9月2日 午前9時	第1次試験合格者発表	官庁訪問予約受付開始	①人事院HPで確認。後日、はがき(第1次試験合格通知書)が届く。 ②環境省HPを確認。希望日と時間帯を記入しメールにて予約。試験日程や他省庁の官庁訪問日など、スケジュールをよく考えて申し込もう。
9月3日		官庁訪問 第1日目	初回はWEB面接で、通過すれば原則として本省での面接でした。いずれも服装はクールビズでOK。
9月4日		官庁訪問 第2日目	
9月7日		官庁訪問 第3日目	
9月9日～ 9月25日	第2次試験(人物)		人事院の面接試験。 (第1次試験合格通知書で指定の日時・場所を実施)
9月28日		官庁訪問 第4日目	
10月13日 午前9時	最終合格者発表	採用内々定 →最終面接の案内	①人事院HPで確認。後日、はがき(合格通知書)が送付。 ②採用内々定と最終面接の案内がそれぞれ電話とメールで伝えられる。
10月15日		最終面接 →内定通知書授与	最後の面接。余程のことがなければ合格ができるらしいが、油断は禁物。クールビズ期間終了のため、服装はスーツ着用。

| 国家公務員一般職試験

・試験区分

環境省一般職自然系は、「建築」、「土木」、「農業農村工学」、「農学」、「林学」のいずれかの試験区分から採用されます。試験内容、配点、出題分野等の詳細や最新情報については国家公務員試験採用情報 NAVI の受験案内をご参照ください。

(国家公務員採用試験受験案内 <http://www.jinji-shiken.go.jp/html/AnkJknAnnList.html>)

・過去問の取り寄せ

各試験区分の過去問は人事院開示請求電子申請システムから入手することができます。

(人事院開示請求電子申請システムの窓口 https://ssl.jinji.go.jp/kaijiseikyu/kaiji_index.asp)

請求する行政文書の名称等の「国家公務員採用試験の過去の問題」にて必要な問題を申請しましょう。

例) 試験名：[一般職(大卒程度)]、試験の区分・請求年度等：[林学 試験問題集 平成〇～△年度]

※当年度の過去問は試験実施日の翌日から開示請求できます。

※試験問題の保存期間は5年間のため、最大5年分の問題を入手できます。

※開示方法は「人事院地方事務所等での開示(閲覧、写し)」or「送付(写し、CD データ(PDF 形式))」から選択できます(CD データがおすすめ)。

※過去問の取り寄せには下記のように時間がかかるので注意して下さい。

申請書送付 → (約1ヶ月後) 開示決定通知、同封の申出書を送付 → (1～2週間後) 過去問到着

| 官庁訪問

・官庁訪問とは？

国家公務員として採用されるには2種類の試験を突破する必要があります。1つは人事院が実施する試験で、いわゆる第1次試験、第2次試験のことです。試験内容は基礎能力試験・専門試験・人物試験等があり、試験に最終合格すると採用候補者名簿に記載されます。ですが、この時点では「採用候補者」であり道半ばです。採用に向けて突破すべきもう1つのステップが官庁訪問と呼ばれる、各府省庁等が個別に実施する面接・試験等です。ここでは、環境省が行う官庁訪問について説明します。

・令和2年度自然系官庁訪問について

官庁訪問の予約

年度により実施時期や予約方法が異なる場合があるため、最新の情報を必ず確認してください。令和2年度の場合、8月下旬に環境省 HP (採用・キャリア形成支援情報 一般職自然系(大卒程度)) 上で予約方

法が公開され、人事院の第 1 次試験の合格発表と同時に官庁訪問の予約が解禁されました。電子メールによる事前予約制で、面接実施日 4 日間のうちの第一・第二希望日ほか必要情報を指定のアドレスに送信しました。

面接の形式

面接形式も年度により異なり、その詳細は受けてみないと分かりません。令和 2 年度の場合は、感染症対策のために Web による面接から始まりました。具体的にはまず、環境省のオンライン会議開催システム「Webex」上で、1 対 1 の面接が 1 日に複数回行われました。同日中に WEB 面接結果の連絡があり、無事に通過していれば日程調整ののち、原則として環境省本省での面接が行われました。なお、訪問者カード（環境省採用 HP から様式をダウンロード、3×4cm 写真貼付）は、官庁訪問予約時にメールに添付して送信しました。本省入館の際は「写真付きの身分証明書（学生証など）」が必要です。

| 参考サイト

試験や官庁訪問に関する最新の情報は人事院や環境省の HP でご確認ください。

○人事院 HP 国家公務員試験採用情報 NAVI

<https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html>

○環境省 HP 採用・キャリア形成支援情報 一般職自然系(大卒程度)

http://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat_ra3/index.html

| 内定者の概要

	A	B	C
最終学歴	大学院修了見込み	大学卒業見込み	大学卒業見込み
学年	修士2年	大学6年	大学4年
性別	男	男	男
併願先	民間企業、地方上級	なし	民間企業、地方上級
インターンシップ	なし	なし	なし
試験区分	農業農村工学	農学	農業農村工学
趣味	料理、バンジージャンプ	公園散策	釣り、スキー、スノーボード
学生時代に打ち込んだこと	ラーメンの研究	アルバイト（塾講師）	部活（バスケットボール、ラグビー）

	D	E	F
最終学歴	大学卒業見込み	大学院修了見込み	大学卒業
学年	大学4年	修士2年	既卒
性別	男	女	女
併願先	地方上級	民間企業、地方上級	環境省総合職
インターンシップ	なし	なし	大学の農場（半年）
試験区分	林学	農学	林学
趣味	登山、自転車旅行、写真	旅行、写真、家庭菜園	陶芸、乗馬、クラフトビールを飲むこと
学生時代に打ち込んだこと	写真の公募展で全国2位！	ボランティア（教育関係）	アメリカの国立公園巡り、陶芸

	G	H	I
最終学歴	大学卒業見込み	大学卒業見込み	大学卒業
学年	大学4年	大学4年	既卒
性別	女	男	男
併願先	環境省総合職。林野庁、地方上級	国家総合職、地方上級	国家総合職。地方上級、民間企業
インターンシップ	なし	環境コンサルタントでの調査（二週間）	なし
試験区分	林学	林学	林学
趣味	旅行、散歩	海釣り、登山 生き物の飼育・観察	写真、食事、温泉
学生時代に打ち込んだこと	部活（オーケストラ）	部活（空手）	学生団体ボランティア、ゼミ

	J	K	L
最終学歴	大学院卒	大学院卒	専門学校卒
学年	既卒	博士2年	既卒
性別	男	男	男
併願先	環境省総合職、地方上級	なし	なし
インターンシップ	なし	なし	なし
試験区分	林学	林学	林学
趣味	野球観戦、読書、旅行、 トレッキング、産業遺産めぐり	カメラ、旅行、勉強会	登山、料理、映画鑑賞
学生時代に打ち込んだこと	趣味	生物研究、部活動（自然環境部）	アルバイト（山岳関係）

内定者情報まとめ

- 試験区分は林学が最も多い
- 併願はほとんどの人がしている
- 趣味が多くアクティブな人ばかりの印象

内定者 A の場合

プロフィール

- 【最終学歴】大学院修了見込み 【学年・性別・年齢】修士 2 年・男・26 歳
【参加した説明会・回数】自然系採用説明会(WEB)・1 回
【併願先】地方上級・民間企業
【試験区分】農業農村工学 【専攻科目】環境科学

志望動機

日本の豊かな自然を後世にも残したいと思い、志望しました。
昔から自然に囲まれた生活をしていたので、漠然とそうした職に就きたいと考えていました。大学も自然と関わる学部に進みました。そこでの研究やレンジャーの方々と関わることを通じて、良い面だけではなく国立公園には様々な課題があることを知りました。自分のアイデンティティを形成した自然を後世にも残せるよう、こうした課題の解決に関わることができる環境省を志望しました。

勉強方法

・基礎能力試験

大学主催の公務員講座を利用しました。週 2 回 3 時間程度を半年ほど。
満点を取らなければならない試験ではないので、全く自習しない科目も作りました。そうした科目は、講座を聞いて何問か拾えたら儲けものだなという気持ちで受験しました。

・専門試験

過去問を利用しました。農業農村工学区分野は計算 3 割・知識 7 割程度の配分になっています。基本的には計算問題の力学を中心に勉強し、試験直前に知識分野の過去問を回すような形で試験に臨みました。知識分野は範囲こそ広いものの、ある程度パターンがあるため直前の詰め込みが得点に繋がりがやすいと思います。

・専門記述

白書を利用しました。現状の課題や話題のトピックが載っているので、それらに対する理解と回答を用意するような形で準備しました。

・二次面接&官庁訪問

官庁訪問

他省庁ではなく環境省に入る理由を伝えられるよう準備しました。各省庁で予算や事業の規模も異なるため、その点を意識して回答を用意しました。

二次試験

国家公務員にしか出来ないことは何なのかをイメージして臨みました。一次試験の点数によっては必ずしも良い評価を得る必要はないので、気楽に受けました。

・内定までの過ごし方、心がけたこと

学部 4 年頃から環境省に入ることを考えていましたが、とにかく様々な業界に足を運んでみました。敢えて他の業界を見ることで、環境省に入る理由を明確にしていきました。レンジャーの方々と関わる中で環境省に対するイメージがある程度形成されていたこともプラスに働いていたと思います。

その他にも、鳥獣害対策の講習会に参加したり、環境に関わる資格にチャレンジしたり、自分の興味が向く方へひたすら走っていました。

↑アドバイス

就職活動の際には公務員一辺倒ではなく一般企業も並行して受験することをお勧めします。

そうして就職活動を続けるうちに、自分が本当にしたいことが見えてくるはずです。様々な業界の話フラットに聞けるのは就活生の特権なので、とにかく多様な業種・業界に触れることが大切だと思います。その上で環境省を志望するのであれば、あとは自分の思いを伝えるだけです。内定者の声を読んでくださった方々の就職活動が納得のいくものになるよう願っています。

内定者 B の場合

プロフィール

- 【最終学歴】 大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】 学部6年・男・24歳
【参加した説明会・回数】 Web 業務説明会・1回
【併願先】 なし
【試験区分】 農学 【専攻科目】 獣医学（毒性学）

志望動機

獣害や希少鳥獣の保護増殖事業といった野生動物問題に関心がありました。自然豊かな環境で過ごした幼い頃からの経験に強く影響されたように思います。野生動物問題には地域住民の方々をはじめとした様々な人が関与します。各主体の意見を調整して、全体の流れを1つにまとめる役を担いたいと感じたのをきっかけに入省を志すようになりました。

勉強方法

・基礎能力試験

過去問を数年分解きましたが、文章理解以外自信を持てるような分野がありませんでした。山をはって本番外してしまうよりは、どの分野も平均的に解けることを目指してまんべんなく練習しました。私の場合、専門試験に時間をかけたかったので、基礎能力試験の勉強は最低限にせざるを得ない状況でした。試験当日は正答する自信のないものは躊躇せずとばして、解ける問題で点を稼ごうと意識しました。

・専門試験

2020年の1月頃から対策を始めました。専門外で独学であったため、かなり時間をかけました。お世話になった教材は、スーパー過去問ゼミ、白書、農学基礎シリーズ、過去問です。各教材で覚えておきたいと感じた知識を一問一答形式でまとめて、繰り返し練習しました。手書きによるまとめ作業は手が疲れるので word 等でまとめました。膨大な量になりましたが、何度も周回することで確実に自分の知識にしました。

論述試験の対策として、農業新聞を毎日読んで関心をもったテーマについてノートにまとめました。試験の直前期には、過去の出題例について文章構成を考える練習をしました。文章構成だけで実際に解答を仕上げる練習をしなかったのは失敗でした。試験当日は、予想していたよりも時間との勝負を強いられました。試験時間の都合で、やむなく書くことを断念した内容もあったので、より本番を意識した練習を積んでおくべきだったと感じています。

・二次面接&官庁訪問

面接はハローワークで練習させていただきました。本番の緊張した局面でも自分の言葉で思いを伝えるためには何度も練習することが大切だと思います。

・内定までの過ごし方、心がけたこと

大学の実習、研究活動、筆記試験の勉強などを並行して進める必要がありました。やるべきことが積み重なって不安になることもありました。1週間単位でのスケジュールを大雑把にでも立て、とにかく計画的に動くことを心掛けました。

アドバイス

5年生になった頃から進路について真剣に考えるようになり、受験を決めました。私にとって高いハードルだと分かっていたので、不合格も覚悟していました。それでも内定をいただけたのは、諦めずに勉強し続けたからだと考えています。

大きな不安の中で、迷うこともあるかと思いますが、とにかく継続することが重要だと思います。紙面上でしかエールを送れませんが、健闘を祈っております！

内定者 C の場合

プロフィール

【最終学歴】 大学卒業見込み

【学年・性別・年齢】 学部 4 年・男・22 歳

【参加した説明会・回数】 なし

【併願先】 地方上級、民間企業

【試験区分】 農業農村工学

【専攻科目】 環境情報学

志望動機

保全していくべき自然に携われる仕事がしたいと思ったので志望しました。きっかけとして、幼いころから田園風景が身近にあり、遊び場となっていたので自然環境には興味がありました。そして、高校の授業で将来の職業についてプレゼンテーションをする機会があり、自然に携われる仕事を調べた結果、レンジャーを知りました。その時からレンジャーという職業を意識し始めました。大学では国立公園に関わることのできる研究室に所属し、国立公園に通って研究を行いました。研究を行うことでより一層、自然環境に携われる仕事がしたいという意志が強くなり、環境省を志望しました。

勉強方法

・基礎能力試験

問題集の中で公務員試験に出た問題を一通り解き、時間がかかった問題や解けなかった問題を重点的に解き直しました。それらの解法を自分自身で解釈したものをノートにまとめることで理解を深めました。

・専門試験

大学の授業や公務員対策講座などを受講して勉強しました。その他の時間は、授業で習っていない範囲や細かい部分をノートにまとめて理解を深めました。

・二次面接&官庁訪問

二次面接と官庁訪問どちらも履歴書に記載したことに対して想定される質問の回答を用意しました。深く質問された時に回答できるように、これまで何を考えて行動してきたのか自己分析しました。また、それらを言語化して整理しました。

・内定までの過ごし方、心がけたこと

試験までは試験勉強に尽力しました。試験後は自己分析を徹底して行い、面接対策を行いました。規則的な生活を送る期間が続いたので短時間で行えるリフレッシュ法を自分なりに考えて行っていました。

アドバイス

就職活動において、忙しくて心に余裕がなくなってしまうことがあるかと思います。そんな時こそ、周りにいる家族や友人を頼ることが大切なのではないでしょうか。そういった方々が客観的に評価をしてくれることで新たに気づくことが案外多かったです。就職活動は個人で行いますが、孤独で行っているというわけではないのかなと思います。偉そうに言える立場ではありませんが、少しでもみなさんの励みになれば幸いです。ささやかではありますが、みなさんのご健闘をお祈りしています。

筆記試験は直前で詰め込めばどうにかなるかもしれませんが、これまでの人生で得た経験や思いは急いで詰め込んでどうにかなるものではありません。逆に言えば、それは何ものにも代えがたいあなたの強みになります。ぜひ、いまある時間をいろいろな経験をする為に使ってください。

内定者 E の場合

プロフィール

【最終学歴】 大学院修了見込み 【学年・性別・年齢】 修士 2 年・女・24 歳
【参加した説明会・回数】 自然系採用説明会（WEB）1 回
【併願先】 地方上級、民間企業
【試験区分】 農学 【専攻科目】 農学（園芸学）

志望動機

絶滅危惧種の保全に関する研究を通して、現場で希少な自然の保全に携わりたい気持ちが強くなったためです。NPO 法人、保全活動に取り組む地域の方、大学の教授など様々な立場の人と関わりました。それぞれの立場で、それぞれができる方法で絶滅危惧種の保全に取り組んでいること知り、多様な方面から自然の保全について考えることが重要だと感じました。そのため、様々な立場の人と関わりながら日本の豊かな自然の保護について考えたいと思い志望しました。

勉強方法

・基礎能力試験

数的処理の配点が多いため、数的処理対策を中心に勉強していました。専門科目の比率が大きいのであまり基礎能力試験の勉強に時間を割きませんでした。

・専門試験

過去問とスーパー過去問ゼミを軸に勉強していました。過去問は研究室の先輩が人事院から取り寄せてくださったものを利用していました。スーパー過去問ゼミで間違えた問題は関連知識と一緒にノートなどにまとめて、間違いノートを作成しました。試験直前はノートの内容をインプットする作業に時間を割きました。

・二次面接&官庁訪問

二次面接では、なぜ公務員になりたいのか、なぜ地方公務員ではなく国家公務員を志望するのかを話せるようにし面接に臨みました。この時点では、志望官庁の理由などはあまり聞かれなかったと思います。

官庁訪問では、農学区分の受験者のほとんどは農林水産省を受験しており、環境省を受験する方はあまりいないイメージがあります。そのため、なぜ環境省で働きたいのか、なぜ自然保護官になりたいと思ったのか、その理由を明確にしました。

・内定までの過ごし方、心がけたこと

環境省で働きたいと確信してからは、周りの人に「環境省で働きたい」と話すようにしていました。話すことで自分の気持ちが整理できるし、働きたいという気持ちが強くなるのでオススメです。また、公務員試験全般に当てはまることですが、民間企業を志望する人に比べて内定が出るのが遅いです。周りと比べて不安になってしまうこともありましたが、そういう時は気分転換のために外にでて散歩していました。

↑アドバイス

私は修士 2 年次に官庁訪問をして内定を頂きましたが、人事院の最終合格を頂いたのは学部 4 年の頃です。人事院採用名簿の有効期限は 3 年間なので、学部 4 年で採用名簿に載ることができれば、修士の就職活動に余裕ができます。公務員就職を考えているけれど大学院で研究もしたい方は、学部生の段階で最終合格しておくのもありかと思います。

総合職で一度、環境省を官庁訪問していたので、どのような質問をされるのかは大体予想ができていました。志望理由をきちんと伝える準備と、予想質問にどう答えるかを書き出し、あとは鏡を見ながら笑顔で話す練習をしました。面接の練習も兼ねて、民間企業の就活をするのもオススメです。メンタルが鍛えられます。また、友達や家族と自分の考えについて会話してみるといいと思います。自分の考えの足りていない部分や、どうやったら考えを相手に分かりやすく伝えられるかが、だんだんと見えてきます。

・内定までの過ごし方、心がけたこと

あまり勉強を詰めすぎないようにしました。私は1年間、公務員試験に向けて勉強しましたが、1日あたりの勉強時間は短かったと思います。それでも勉強するときは集中し、効率よく勉強することを心がけました。眠かったり集中できない時は、ダラダラと勉強するのではなく思い切って勉強を中断し、仮眠を取ったり別のことをしました。このようにメリハリをつけることがとても重要です。そして、勉強している内容を楽しむことも大切だと思います。公務員試験のための一時凌ぎの勉強ではなく、人生を豊かにする勉強になればラッキーですね。

↓アドバイス

基礎能力試験はいかに速く解くかが勝負です。数的処理などは、速解き方法を紹介している参考書で勉強することをオススメします。また、本命が一般職でも、予行練習がてら総合職も受験してみてください。試験や面接はたくさん経験している人の方が有利のはずです。最後になりますが、みなさんが夢に向かって突き進めるよう応援しています。頑張ってください！

内定者 G の場合

プロフィール

- 【最終学歴】大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】学部 4 年・女・22 歳
【参加した説明会・回数】JOB トーク（5 回）、自然系職員志望者向け説明会（2 回）など
【併願先】国家公務員総合職、林野庁、県庁
【試験区分】林学 【専攻科目】植生管理学

志望動機

元々、環境問題に関わる仕事をライフワークにしたいと思っていました。大学入学前からレンジャーという職業は視野に入れていましたが、気持ちを固めたのは学部 3 年の頃でした。自然保護はどうあるべきかを考える機会が大学の講義の中で与えられ、その中で私は「自然は残していかなければならないが、地域の人々から取り上げるような保護になってはいけない」と感じ、自然保護の難しさを改めて認識しました。その時から、自然と人、人と人の間に立って、公平な立場で地域の自然保護の問題に取り組むレンジャーになりたいと強く思うようになりました。

勉強方法

・基礎能力試験

12 月頃から数的処理・判断推理の問題集に取り組んでいました。ただ、大学の試験やレポートに追われていたので実際に本腰を入れたのは 2 月頃でした。数的処理・判断推理・資料解釈は自信がなかったので、本番までに問題集を 2~3 周しました。過去問題は時間感覚を身につけるために使いました。

・専門試験

私の場合は「専門試験の内容⇔大学の講義の内容」であったので、まずは大学の授業にしっかりと取り組むことが近道でした。2 月になって授業が終わったあたりから、「過去問を解く→授業プリントや参考書で復習する→間違えたポイントをノートに簡潔にまとめる」という作業を繰り返し行いました。「森林・林業実務必携」は、分からないことがあればその都度開くといった辞書のような使い方をしていました。

・二次面接&官庁訪問

面接は何度やっても毎回緊張しましたが、それでも本命の面接の前に他で何度か経験していたことで、多少は心にゆとりができたような気がします。

人事院の面接は「分かりやすく・簡潔に」を心掛けました。面接カードのどこを切り取って質問されるか分からないので、答えを準備し過ぎず柔軟な気持ちで臨みました。

官庁訪問は、自分を正直に出すことを求められていると感じました。しかし意外と面接はあっという間に終わってしまうもので、「これを言いたかったのに言えなかった！」とならないよう、訪問者カードは聞いてほしいことを全て書いておくといいです。話したいことは訪問者カードに書いておけば、きっと面接官の方はそのアピールポイントについて聞いてくださると思いま

す。

↑アドバイス

今思い返すと、まだ気持ちを固めていない頃から JOB トークや大学内説明会等で実際にレンジャーのお話を聞き、レンジャーという職業について理解を深めておいて正解でした。就職活動全般に言えることかもしれませんが、自分の知っている職業の中からしか選択はできないため、その職業を目指すかどうかは分からなくても情報を収集することは大事だと思います。

一方レンジャーになりたいと心に決めた皆様は、あとはがむしゃらに戦い抜くのみかと思えます。心と体を健康に保ちながら、頑張ってください。

内定者Hの場合

プロフィール

- 【最終学歴】大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】学部4年・男・22歳
【参加した説明会・回数】自然系採用説明会(WEB)など6回
【併願先】国家総合職、地方上級
【試験区分】林学 【専攻科目】環境学

志望動機

小学5年時に読んだ本がきっかけです。幼いころから自然の中で遊ぶことが好きで生き物が大好きだったこともあり、その本に書かれた人物像の活躍する姿に魅せられました。自然への関わり方は多様であると考え大学生活では保全活動やインターンシップ、ボランティアに参加し、そうした過程で自然保護には繋がりが大事であると感じ、地域の方々や現場で奮闘する方々に寄り添い声を届けたい、そういった仕組みを調整したい、現在ある景色を後世に伝えたいという思いが強まり、自然保護官になるという気持ちが固まりました。

勉強方法

・基礎能力試験

基礎能力試験の勉強は10月ごろから始めました。本格的に勉強を始めたのは年明けからになります。私は合格点を先に確認し6割を目標に計画しました。社会科学、人文科学が苦手だったのでそれらには手を付けず、数的処理を畑中シリーズで対策しました。自然科学は過去問で間違えたものを調べました。

・専門試験

専門試験も勉強は基礎能力と同じ時期に始めました。人事院より5年分の過去問を取り寄せ、例年の『内定者の声』を参考に『森林・林業実務必携』と『森林・林業白書』で選択肢を添削しながら勉強しました。林学は専門外でしたので初めは大変でしたが、5年分の解説ノートを作ることで理解が深まりました。

専門記述対策は5年分書いてみて、2年分はゼミの担当教員に添削していただきました。

・二次面接&官庁訪問

大学生活において自身が取り組んできたことを思い返し、その時感じたこと、それによって得たものを書き出し面接カードにまとめ、担当教員や大学のキャリアセンターで添削していただきました。面接は対面3回とオンラインで2回ほど練習しておきました。面接が得意であるとしても話すことで考えがまとまることもあるので最低2回は面接対策を行うことをお勧めします。

・内定までの過ごし方、心がけたこと

周りが続々と決まっていく中、公務員試験は結果が出るのが遅く不安になってきますが、私は説明会に参加したり「内定者の声」を読んだりすることで気分転換を行っていました。コロナの影響で延期された期間は意気消沈し勉強時間が7割減するなどしましたが、原因は休日を設け

ていなかったことにあったと思うので、週1は気分転換する日を作ると良いかと思います。

アドバイス

自分の様に勉強が苦手な方でも、試験の対策は半年あれば間に合うので、いまある時間を使っていろんなことに挑戦し経験するといいと思います。そうすることによって面接で話すこともできますし、なにより自分が本当にしたいことを考え、深めるきっかけになると思います。最後を決めるのはここで働きたいという熱量の大きさだと思いますので、諦めることなく最後まで頑張ってください。

内定者 I の場合

プロフィール

【最終学歴】大学卒 【学年・性別・年齢】既卒・男・23歳
【参加した説明会・回数】2回（web 業務説明会）
【併願先】国家公務員総合職・地方上級・民間企業
【試験区分】林学 【専攻科目】政策科学

志望動機

学生時代に NPO のボランティア活動でコウノトリの野生復帰事業に携わる機会があり、自然環境の多様性や、非日常の景観、新しい知的発見等、自然から得られる恩恵や地域独自の文化を後世へ損なわずに繋いでいきたいと思ったことがきっかけです。

また、自身の学んだ学問や実体験を通じて、環境問題の解決には、異なる立場の人々が、共通の目標を決め、各団体・個人が意義を理解し、取り組みを継続する一連の仕組みを形成し、維持及び発展させることが重要であると感じました。

働く経験を積む中で、フィールドの前線でそこでしか会えない人、動植物との出会いや、苦労して準備したものが直接的に形になる瞬間や現場を多く見たいと感じ、自然系職員を希望しました。

勉強方法

・基礎能力試験

公務員試験を勉強し始めたのが、3月からでした。独学だったので、最初に予備校の模擬試験を受験し、現状を把握したうえで、市販の過去問教材を余すところなく数周しました。6割を目指していたので、数的処理・推理、時事、各科学を平均的に時間は割いたと思います。当日絶対的な自身分野で得点できない場合もリスクとしてあるので、分散するのもありだと思いました。

・専門科目

総合職試験（森林自然環境）で基本的な政策関連の白書情報を対策しており、林学区分は過去問を取り寄せて未学習範囲を補うようにしていました。専門外（特に文系）の方だと、最初は言葉の意味を検索して、間違い探しのような繰り返しで大変だと思います。数周していくうちに、関連省庁との政策の違いに気が付いたり、機会がなければ生涯知ることのない林業の技術を知ったりすることが出来るなど、情報が整理され余裕が出てくるので、数をこなして点と点を繋いでいくような感じで進めるといいと思います。

・専門記述

政策課題に対して、原因と解決策を記載するケースが大半の過去問題を占めていると私は考えました。白書を読み、選択問題を解く中で、知識（政策上重要なキーワードや考え方）の大枠の趣旨がつかめてきます。それに基づいて、具体的な事例を探してどういったケースで課題に関連していくのが整理することが出来れば、基本的に原因から解決提案の中身の情報が担保され

ると思います。

- ・二次面接&官庁訪問

既卒でしたが、卒業後、大学のキャリアセンターの添削や面接対策を利用しました。人事院の面接と官庁訪問の際に記載する内容は異なりますが、基本的に軸になる共通点、キーポイントたる言葉があったため、その考え方に至った経緯や過去に得た経験を今後働く上でどう生かしていけるのかにつなげる「言語化」を大学職員さんに掘り下げてもらいました。

対人の面接では、自分の中でイメージしている理想像と実際に自分を知らない人知ってもらう間に認識のズレやギャップが生まれてしまうことがあるので、言語化ができればコミュニケーションを円滑に進めることに直結すると思います。

- ・内定までの過ごし方、心掛けたこと

私の場合は既卒の為、周囲の友人の就活状況との比較などが少ないことで良くも悪くも自分との闘いでした。私はレンジャーが第一志望だったため、「何故」の動機を定期的に考えていました。自分の核となる考えがあると楽です。学部生の方は民間企業を現段階で興味が少しあるところは受けるなどすることで、改めて何故レンジャーになりたいのかを見つめなおすきっかけにもなると思います。試験までは知識の詰め込みが一定期間あるため、これをどうやって自分の糧にするか等、ポジティブな方向に何事も捉えるようにしていました。

↑アドバイス

例年少数ですが存在する文系卒のレンジャーになるものの事例でした。学問的には全く畑違いの分野からだったため、試験対策（事前知識）は人より時間がかかりました。一方で、希少な存在の一人でもあると思います。自然科学に関する知識面で劣る分、対人関係構築や異なる視座等、いわゆるソフトスキルのポテンシャルを生かしてどう学びを広げ、活躍するかを考えるのも多様な人材を採用する組織であればチャンスはあると思います。

読んでくださった方々各自の経験から、「人と自然の共生」等といった価値観に共感することができれば、挑戦してみる価値はあると思います。頑張ってください！

内定者 J の場合

プロフィール

【最終学歴】大学院卒 【学年・性別・年齢】既卒・男・29歳
【参加した説明会・回数】少人数説明会などに複数回
【併願先】環境省総合職、地方上級（環境職）
【試験区分】林学 【専攻科目】高分子化学

志望動機

地域の人々と協力しながら、自然の保全と利用を両立させる仕事がしたいと考えたからです。社会人となってから北海道で過ごした2年の間に、礼文島や知床などの道内各地を訪れ、美しい景色や多種多様な動植物などの自然に五感を通じて触れ、時にはその地域の文化や人々、そしてそこに来る旅行者と交流することもありました。それらの貴重な経験が、私自身の生き方や、自然との付き合い方を忘れつつある人々のこれからについて改めて考えるきっかけとなり、自然と関わる仕事がしたいと考えるようになりました。自然を相手に仕事をする上で、人と自然だけでなく、人と人とを繋ぐことを大切にしているというレンジャーの方々の考え、また、自然に関する幅広い業務に携わるとともに、日本全国の現場で地域の人々と積極的に関わり、その経験を業務に活かすことができるレンジャーの特異性に魅力を感じ、環境省自然系を志望しました。

勉強方法

・基礎能力試験

専門試験に力を入れなければならない状況だったので、基礎能力試験の勉強はあまりしませんでした。数的推理や判断推理については、過去の公務員試験の問題が多くのもっている参考書を選んで一通り解き、スムーズに解けなかったパターンの問題だけを繰り返し勉強しました。

・専門試験

多肢選択式：完全に専門外の分野だったので、5年分の過去問を一通り解いてみて、現在の自分が取れる大体の点数と出題される問題の傾向の把握を最初に行いました。次に、問題の選択肢について、森林・林業白書や森林・林業実務必携などからどこが間違っていたかを一つ一つ確認していく中で知識を増やしていきました。また、個人的に自分の手を使って書いたほうがものを覚えやすいので、森林・林業白書を読みながら、より簡潔にノートにまとめていきました。森林・林業実務必携についても試験で頻出する章を中心にノートにまとめ、それらを何度も読み返していました。

・記述試験

多肢選択式の勉強の延長のような感覚で、ホットな話題を中心に、森林・林業白書を改めて読み直したくらいです。

・二次面接&官庁訪問

官庁訪問：訪問者カードは友人に確認してもらい、気になった点などを教えてもらいました。ま

た、書いた内容から踏み込んで質問されそうなところを想定して、ある程度話す内容を整理していました。前職がレンジャーとまったく違う業務内容だったため、その経験をレンジャーとしてどんな風に活かすことができるのか、ということ意識しました。

二次面接：自己採点で筆記試験は良い点数を取れていることが確認できたので、余裕をもって臨むことができました。突拍子もないことを言わなければ大丈夫と考え、面接前に官庁訪問用に用意した想定問答を軽くチェックしたくらいです。

・内定までの過ごし方、心がけたこと

今やれることはもうない、後は結果を待つだけだと思うと非常にすっきりとした気分になりました。官庁訪問前に前職を辞めていたこともあって、このぽっかり空いた時間に小笠原や八甲田など、いつか行きたいと思っていた場所に行ってみたり、近所の気になっていたお店に足をのばしてみたりと、悠々自適に日々を過ごしていました。

↑アドバイス

数年前の新卒の私に今の自分の話をしても、きっと有り得ない話だと一蹴すると思います。それが偶然、仕事で北海道に住んだことがきっかけで、気付けばレンジャーを志すようになっていました。本当に人生何があるかわからないものだな、としみじみ感じています。今色々な選択肢があってどうするか迷っている方は、新しい出会いやこれまでの経験を大切に、自分のやりたいこと、やるべきことを探し続けて欲しいと思います。例え遠回りをしたとしても、そういったものを見つけることが大切だったと今更ながら感じています。そしてまた一方で、絶対にレンジャーになると心に決めた方は、例え何度か失敗しても、自分がレンジャーになりたいと思った原点を忘れずに、気持ちを切らさずに頑張ってください。陰ながら応援しております。

内定者 K の場合

プロフィール

【最終学歴】 専門学校卒 【学年・性別・年齢】 既卒・男性・23 歳

【職歴】 環境省非常勤職員(アクティブレンジャー)

【参加した説明会・回数】 WEB 業務説明会・1 回

【併願先】 なし

【試験区分】 林学

【専攻科目】 生態学

志望動機

環境破壊や絶滅危惧、温暖化等のニュースを見るたびに、漠然と危機感を感じていました。自然環境系の専門学校を卒業後、より近くで自然と人との共生を考え仕事ができるアクティブレンジャーを務めました。アクティブレンジャーの仕事を通して、地元との関わりの中で優れた技術や知識・経験、熱量を持った方々に多く出会い、国家公務員として、その方々を少しでもサポートし、国と地元で協力して、より一層日本の自然について考えていきたいと感じたため、改めて、環境省を志望しました。

勉強方法

・基礎能力試験

実際に公務員試験を受験するのは今回が三回目でしたが、令和 2 年 3 月末まで就業していたこともあり、勉強を本格的に始めることができたのは令和 2 年 4 月でした。

基礎能力試験では特に判断推理と数的推理に苦手意識を感じていたため、この二つを中心に独学しました。

最初はとにかく数をこなすしかないという考えに陥っていたので、分からなければすぐに答えを見て、同じ問題を何回も解きました。頭の中で数的処理は苦手だと思いこんでいたので、その考えを払拭できるように、できるイメージを無理やり作るようにしていました。文章理解や資料解釈は毎日 3 問程度ずつ解いて問題に慣れるようにしていました。

知識分野は捨て問題を何個か決め、ほぼノータッチで挑みました。

※独学で行き詰ったら、教えてもらうのが良いかもしれません。

・専門試験

基礎能力試験同様、令和 2 年の 4 月から本格的に勉強を始めました。

学生時代の予備知識もあり比較的スムーズに勉強できました。

過去問を 10 年分ほど取り寄せ、問題を切り取ってルーズリーフに貼り、白書と必携で設問を調べながら勉強しました。基礎能力試験より配点が高いため、気を抜かずに時間をかけて勉強しました。

・専門記述

ある問題の現状と解決策を問う問題が多いと感じたため、白書の読み込みや過去問を解く段階

で最近のトピックや過去の事例などを少しずつ頭に入れるようにしました。
対策をあまりできなかったため、試験終了後から結果発表まで不安でした。

・二次面接&官庁訪問

自分の考えを紙にまとめる程度で面接の対策はほとんどしてありませんでした。

就業中にレンジャーや地元の方々、様々な職種の方と話す機会があり、人前で自分や組織の考えを話す機会が多かったことが、少しの自信になっていたと思います。

ただ、面接の作法などはあまり勉強していかなかったので、当日は少し不安がありました。

練習するに越したことはないと思います。

・内定までの過ごし方、心がけたこと

勉強の合間や合否を待っている間などは、なぜ環境省に入りたいか自問自答するとともに、仕事をしていて楽しかったことややりがいのあったことなどを考えていました。

入省してどのようなことがしたいか、どのような人と関わりたいか、ゆっくり考えてみると良いかもしれません。

↓アドバイス

私の場合は専門学校卒なので大卒の皆さんと違い特殊なケースの1つだと思います。

正直なところ大卒ではない分、受験の際には一抹の不安がありました。

しかし、私の場合はアクティブレンジャーとして働いた3年間で様々な仕事を実際に経験できたことに加え、レンジャーの先輩や同僚、地元の方々と出会えたことが、改めて環境省を志望する理由になりました。私と同じような境遇の方（大卒でない人）は悩んでいらっしゃるかもしれませんが、自分はどんな事がしたいのか、一度現場を見てみるという意味でもアクティブレンジャーを経験してみるのも一つの手かもしれません。もちろん、民間で経験するのも良いと思います。

いずれにしても、環境省に入りたいと思う熱意と少しの経験があれば大卒でなくても採用されるチャンスがあるのではないかと思います。

勉強量：計 30 日程度（2 月～6 月ごろ週 1 日程度＋本番前 1 週間、過去問 8 年分）

参考書：『森林・林業白書（以下、白書）』『森林・林業実務必携（以下、必携）』

勉強方法：2 月ごろに友人や人事院から 8 年分の過去問と『必携』を入手し、また最新版の『白書』を購入しました。まずは過去問の問題文のみを Excel ファイルに書き出していったところ、前半 1/3 くらいは『白書』から、残りは『必携』の特定の章から出題されるといったような傾向があることがわかりました（例えば、問 39 は 8 年分全て『必携』の 10 章「測量」からの出題）。そこで参考書 2 冊から頻出問題を中心に Word ファイルに整理しながら覚えました。あとは本番 2 日前に一度本番形式で練習し、本番前日は作成したファイルを見返して本番に挑みました。

2. 記述試験

勉強量：計数時間程度（2 月ごろ＋本番 1 日前）

参考書：『白書』

勉強方法：2 月ごろに過去問 10 年分の問題文を一読して、おおよそどのようなことが問われそうか把握しました。『白書』の巻末資料の一つ「森林及び林業施策」にどのような施策が行われているかがまとめられていました。そこで本番 1 日前にその中から関係しそうなところを読み、使えそうなワードをいくつかメモしておきました。（余談ですが、本番では手書きで長文を書くのが久しぶりで予想以上に時間がかかり、解答後半の字が乱雑になってしまいました。一度本番形式で練習しておけばよかったかもしれません。）

・二次面接&官庁訪問

練習量：計 3 日間程度（訪問者カード執筆 1 日＋ α ・面接練習 2 日 4 回程度）＋日頃からの意識

練習方法：面接で話す内容は日頃から考え続け、1 月ごろからは思い浮かんだキーワード等をメモしておきました。訪問者カードは 6 月下旬にそのメモを参照しながら 1 日かけて書き上げ、一度複数の友人に意見をもらい細かな修正を加えました。面接練習は本番 4 日前と 2 日前に計 4 回ほど、WEB 上で友人らに面接官役をお願いして実施し、端的に話すコツや話す内容の取捨選択、無意識の癖への対策法などを習得しました。本番の面接は質問に対し真摯に答えることを心がけて挑みました。

・内定までの過ごし方、心がけたこと

試験・面接前からメリハリを大事にし、勉強すると決めた日は勉強だけに集中して、それ以外の日は研究などに取り組むことを心がけていました。試験・面接後もそれを続け、結果や来年のことは考えず、他のやるべきことに取り組む日々を過ごしていました。ただし、今年は新型コロナの影響で例年のスケジュールが参考にならず、官庁訪問合格の連絡や最後の採用面接がいつあるのかははっきりしないことに若干の不安がありました。また、人事院試験は最低限の勉強で自己採点もしなかったために、結果発表直前は気が気でなかったです（笑）。

↓アドバイス

試験については自分の能力と勉強すべき内容、達成目標を把握した上で計画的・効率的に勉強を進めれば、他の就職活動や研究、仕事などとの両立は実現できると思います。一方で面接につい

ては、私が直接的に練習にかけた時間は少なかったものの、「自分はこれからの人生で何を仕事としていきたいか」は日々を過ごす中で時間をかけて考えてきました。自分とよく向き合う時間によって「レンジャーとして働きたい」という思いが確固たるものとなり、それは面接でも働き始めてからも重要な糧となると思います。ささやかながら、みなさまのご健闘をお祈り申し上げます。

| 巻末資料

ここでは、令和3年度入省予定の私たちが公務員試験の勉強の際に使用した、資料・参考書をランキング形式でご紹介します。ぜひ参考にしてください。

| 基礎能力試験

- 基礎能力試験は過去問を使った勉強がオススメ！
- 1位 速攻の時事（実務教育出版）
- 2位 国家一般職教養試験過去問500（実務教育出版）
基礎能力試験過去問（人事院*）
- 3位 スーパー過去問ゼミシリーズ（実務教育出版）

| 林学

- 林学試験定番の3つ！
- 1位 森林・林業白書（林野庁）
- 1位 林学試験過去問（人事院*）
- 3位 森林・林業実務必携（朝倉書店）

| 農学

- 農学はこの3つが同率1位！
- 1位 スーパー過去問ゼミ 農学・農業（実務教育出版）
- 1位 農学試験過去問（人事院*）
- 1位 食料・農業・農村白書（農林水産省）

| 農業農村工学

- 農業農村工学はこれ一択！
- 1位 資格試験のための農業農村工学必携（農業農村工学会）

*人事院に過去問を請求する場合は1～2ヶ月ほど時間がかかるので注意！

| おわりに

内定者の声を最後まで読んでいただき、ありがとうございます。この冊子では、今年度の内定者が就職活動中に考え、実行してきたことを紹介しています。私たちはレンジャーを目指すにあたって、それぞれのスタイルで活動をして参りました。就職活動中の皆様がこれを読んで、環境省のレンジャーを受験する際の参考の1つにいただければ幸いです。

就職活動中は自己を分析する貴重な機会です。しかしながら、行き詰ってしまい悩むことがあるかと思います。そんなときは1人で無理をせず、ご家族やご友人との対話を通して思考を整理していくと胸のつかえが取れるのではないのでしょうか。

就職活動においては、視野が狭まることもあるかと思います。しかし、選択肢となる職業はたくさんあり、自分次第で可能性を拡げることができます。少しでも興味のある業界があれば挑戦してみたいかがでしょうか。そうすることによって、納得のいく就職先にたどり着けるのではないかと思います。

今年度は新型コロナウイルスの影響で就職活動の日程が例年とは異なりました。来年の状況は不透明ですが、皆様には就職活動にあたって後悔が残らないように積極的に活動をしてほしいと思っています。

最後になりますが、環境省のレンジャーを目指している皆様と一緒にお仕事ができる日が来るのを楽しみにしています！

令和 3 年度環境省入省予定
一般職自然系内定者一同

※環境省について

環境省職員には総合職と一般職があり、それぞれ事務系、自然系、理工系にわかれています。この冊子は令和 2 年度環境省一般職自然系区分の内定者が作成しています。採用に関する情報に関しては下記 HP を参照ください。

○環境省 HP

<http://www.env.go.jp/>

○環境省_採用・キャリア形成支援情報 HP

<http://www.env.go.jp/guide/saiyo/index.html>